

市政ニュース

高校生のためのアートプロジェクトと東日本大震災復興支援！ 福島県立いわき総合高等学校演劇部豊岡公演

市では、但馬で育つ高校生が地域に生きる誇りと自信を持ち、世界に通じる人になるように育成するため、表現力やコミュニケーション力を養い、感性を豊かにする「高校生のためのアートプロジェクト」事業を進めています。

このプロジェクトの一つとして、また東日本大震災復興支援事業として、福島県立いわき総合高校演劇部豊岡公演「Final Fantasy for 3.11.2011」を開催しました。

同校演劇部46人は、8月23日に、いわき市をバスで出発し、約13時間かけて本市に到着しました。

事業実施にあたっては、地元高校生が実行委員会「アートディレクターズ」を組織し、地元団体やボランティアの協力を得ながら、23日の歓迎会から26日の歓送会まで企画・運営しました。

24日には、「いわき・但馬交流特別ワークショップ」を講じ、いわき市と但馬地域の高校生との交流を図りました。ワークショップの最後に市のマスコット「玄さん」が登場し、いわき総合高校の皆さんは大感激。玄さんは「福島のみんなを応援しとるで」と激励しました。

25、26日の公演では、高校生の実演に会場全体が息をのみました。大切なものを一瞬にして失った現実、それでも前を向いて諦めずに生き抜くことの大切さ。

「喪失からの再生」、そんな力強さを感じました。



▲熱演する福島県立いわき総合高校生

東京大学が今年も豊岡で実習！ 里地里山の生物多様性保全人材育成プログラム

市は、東京大学保全生態学研究室と「コウノトリ野生復帰の取組みに寄与する研究活動についての協定」を平成23年に締結して以来、田結区を中心に人材育成のフィールド実習を受け入れています。

8月29日から9月1日にかけて、東京大学から8人の大学院生や研究者計16人が参加。ラムサール条約に登録された気比区にもフィールドを広げ、バイオトープの生物調査や、生物多様性の保全と利用についての聞き取りを中心とした実習を行いました。

また最終日の9月1日には、

実習成果を地元の皆さんに報告する公開ワークショップを開催しました。

この実習や研究成果は、地域の課題解決や活性化に大いに役立つと期待しています。



▲東京大学のフィールド実習

7月の九州北部豪雨に係る義援金を被災地に届けました

九州北部を中心に甚大な被害をもたらした集中豪雨災害に対し、豊岡市と豊岡市区長連合会が合同で、災害義援金の募集を行いました。

市は、8月30日までに集まった義援金217万2834円を8月31日付で被災地義援

金口座へ送金しました。

【災害義援金内訳】

- 区長連合会義援金 215万6121円
- 市窓口募金箱義援金等（地区の祭りで集められた義援金も含む） 1万6713円

主な市政の動き

〔8月〕

- 11日・ロンドンオリンピック女子バレーボール競技井上香織選手大応援会パブリックビューイング
- 18日・京都府宇治市へ災害復旧支援の職員派遣（24日）
- 22日・韓国・東川初等学校訪問報告会
- 26日・兵庫神鍋高原マラソン全国大会
- 27日・モンゴル友好訪問使節団報告会
- 30日・南極昭和基地との交信による南極授業
- 31日・市議会定例会開会（9月27日）

〔9月〕

- 2日・ロンドンオリンピック銅メダルおめでとう！井上香織選手報告会（コウノトリ賞贈呈）
- 3日・最高齢夫婦祝福訪問
- 8日・第45回日本女子ソフトボール1部リーグ第7節豊岡大会（9日）
- 豊岡市景観計画策定

今夏の被災地に市職員を派遣

京都府宇治市の災害復旧を支援

市は、大雨・河川氾濫等により甚大な被害を受けた京都府宇治市に、8月18日から24日までの間、延べ18人の職員を派遣し、災害復旧を支援しました。

派遣職員は、道路清掃や災害廃棄物の処理を行いました。支援場所は、2度の氾濫を起した弥陀次郎川左岸にある

五ヶ庄地区で、被災した家屋から排出される土砂や家具類を、本市から持ち込んだ重機やダンプを使用して収集運搬しました。

本市職員は、台風23号の経験、昨年の中日本大震災での被災地や和歌山県古座川町への派遣経験を生かし、懸命に復旧作業に取り組みました。



▲猛暑の中、被災ごみを次々に片付ける

海を越えて、世界を体感

韓国・東川初等学校訪問報告会と第10回モンゴル友好訪問使節団報告会開催



▲交流会で仲良くなりました

市内小学6年生29人が韓国慶州市の東川初等学校を7月24日から27日まで訪問した報告会を、8月22日に開催しました。現地の交流会では、東川初

等学校の子どもたちによる歌や踊りを鑑賞し、豊岡の子どもたちは豊岡クイズや昔の遊び、合奏などを披露しました。

ホームステイも体験し、いろいろな所に行ったり、家庭料理を味わったりしました。

また、8月27日には、中学生6人を中心としたモンゴル友好訪問使節団報告会を開催しました。

使節団は、8月3日から10日までモンゴル国を訪れ、現地の子どもたちとの交流を中心に、首都ウランバートルで



▲在モンゴル日本大使館で清水大使と記念撮影

のホームステイや野生復帰に取り組み世界最後の野生馬の視察、天幕住居(ゲル)での自然体験などを行いました。

中貝市長の徒然日記 59

南極授業

南極でシャボン玉を膨らませると、どうなるでしょう？

8月30日、市民会館で南極授業がありました。参加を希望する市内の小学5年生約550人が集まり、衛星回線を使って昭和基地とやりとりをしました。案内役は市から越冬隊に派遣している宮下隊員です。画面に隊の方々が見え、子どもたち次々と登場して、子どもたちの質問に答えてくださいました。

「シャボン玉はどうなるか。では、実験の映像をご覧ください」。シャボン玉は丸いまま白く凍り、下に落ちました。

「ペンギンは見ましたか？」
「今、ちょうどコウテイペンギンが昭和基地に遊びに来ています。カメラを外に回してみます。この時期に来るのは珍しいです」

宮下隊員のクイズもありました。正解者が絞り込まれていく、残った児童には宮下隊員の記念品がもらえます。

「南極ではテレビが映る、

○か×か。「×です！」「エエー！」会場は、大騒ぎです。

「南極には郵便局がある」。

「○です！」「オー！」

一番騒いでいたのは、私もかもしれません。

自分たちは豊岡にいるからこそ、直接に南極と結びついたらいいな、と思います。

豊岡は小さな世界都市を目指しています。では小さな世界都市の市民ってどんな市民？私はこう考えています。

①豊岡のことをよく知っている、②だから豊岡が大好きだ、③だから豊岡の一員としての役割を果たす。そしてその上で、④想像の翼、空想の翼、行動の翼は世界に羽ばたいていたいと願っています。

ロビーに、越冬隊を派遣している国立極地研究所からいただいた、南極の氷が展示してありました。2万年以上前の氷です。子どもたちは手で触り、匂いを嗅いでいました。水の中に閉じ込められていた太古の空気が、ロビーに漂っていたはず。